教材事例書式

教材教具名　時間を守ろうシート	教科（日常生活の指導）	報提供者　（　中学部３年生　）

教材教具の概略（ねらいと使い方）　※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

１　ねらい　：　時間の理解や活動の特性に様々な違いがある６名の生徒が、お互いに関わり合いながら、みんなで時間を守ることができるようになる。

２　発達段階：アナログ時計を読むことができる生徒４名と、読めない生徒２名。

３　使い方：

①　守らなければならない時間を３回（いずれも授業開始時間）に絞る。（目標の焦点化）

②　「スタート係」の生徒が、毎朝「時間を守ろうシート」を白板に貼る。時計を読むことが難しい生徒への合図として、時間になったら曲を流す。（係活動による定着化）

③　時計を読める生徒は自分で時計を見て、難しい生徒は曲の合図で集合し、白板に貼ってあるシートに赤いシールを貼り着席する。（自己確認）

④　帰りの会で振り返りを行う。「時間を守ろうシート」のシールの数によって３段階の評価を行う。（クラスでの確認）

⑤　評価シールの数をグラフ化し、月ごとに生徒全員の合計が 90 個を突破すると、お楽しみタイム（お茶会）をもつことができる。（お楽しみタイムによる強化）

児童生徒の反応や教材の評価　使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

・取組を始めてしばらくすると、生徒が他の生徒を呼びに行き、席に着こうと誘う場面が見られるようになり、全員が時間内に着席できることが増えた。時計が読めない生徒も、音楽を聴いたり友達の動きを感じて行動を起こすことができるようになってきた。

・生徒は少しずつ時間を意識して急いだり、やりたいことを中断して後に回したりできるようになり、自己をコントロールする力に広がりつつある。

・守る時間を増やしすぎると自閉的な傾向の強い生徒にとっては苦しいことになるので、緩急のバランスが大切だと思われる。

・今後は、ただ時間を守るのではなく、近い見通し（たとえば１日の日程）、遠い見通し（１週間の日程など）をもつなかで、「ここで頑張ったら、ここからは自由時間」「〇〇が終わるまで頑張ろう」という気持ちの区切りをもちながら、生活していくことができるようになることを目標に取り組んでいきたい。